

1 学校教育目標

- よく考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○保護者・地域との協働で子どもを育てる活気のある学校 ○常に目標を明確に示し、児童の頭と心と体のバランスの良い発達を目指す学校 ○児童一人一人が大切にされ、学ぶ喜びを感じることでできる学校
○児童・生徒像	○地域に根差し、互いの良さや違いを認め合い、助け合える子ども ○基礎的・基本的な学習内容と生活習慣を身につけ、進んで学習する子ども ○常に目標をもって、健康の増進や体力の向上に努める子ども
○教師像	○常に自己研鑽に努め、指導力や授業力の向上に努める教師 ○深い児童理解と教育愛に満ち、児童・保護者・地域に信頼される教師 ○組織的に協働し、教育効果を高める職務行動意識の高い教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

学校全体が落ち着いた雰囲気の中で教育活動が展開されている。純朴で明るく素直な児童が多く、健康面・学習面・生活面に配慮を要する児童に対して全職員が共通理解を図り、素早く、組織的に対応することができている。学校に対する地域・保護者の期待は大きくPTA、地域も協力的である。教職員は、担任している児童と同様に全校児童へ積極的に関わり熱意をもって教育活動にあたっている。校内研究会や教科指導専門員等の活用、OJTの確立はできているが、さらに幼保小連携、小中連携の一層の推進を図り、個々の教職員の専門的な知識や技能、指導力を高めていく。

【前年度の成果と課題】

1 確かな学力の育成

国語75.5%、算数73.4%、全体74.5%の通過率で、区内小学校間の順位は10位上昇したが、数値自体は昨年度に比べ、1.5、3.8、2.6ポイント低下した。昨年度より、各学年とも読解力を中心に国語力を高める指導を進め、一定の成果をあげているが、算数では、数量や図形のへの理解が十分でないなど課題も残っているので、S-P表や学力ポートフォリオの作成・分析、3、4年生のそだち指導等も活用し、一人一人の児童の課題や伸びを正確に把握し、日々の授業に加え放課後や長期休業中の補習学習で理解が不十分な個所を重点的に指導し、学校全体として基礎学力の定着を図った。すべての児童の言語能力向上を目標に、授業以外でも日常的な読書活動や群読などの取組を行い、児童の「話す」「聞く」力の育成を図った。また、校内授業研究会では、国語科の指導を中心に足立スタンダードの内容の徹底を目指し、特に児童によくわかる板書やノート指導について、管理職や区教科指導専門員による週一回以上の授業観察、OJTを通し確実に身に付けさせ、授業で活用できるようにした。日常の授業でつまずきがちな3、4生の児童を対象に区そだち指導員による個別指導を実施し、各児童の学習意欲を高めることができた。

2 豊かな人間性の育成

学校評価項目「児童は仲良く楽しく学校生活を送っている」のに対して、90%以上の保護者が「よくできている」「ややできている」と回答した。開かれた学校づくり協議会の協力も得ながら年間を通し実施している毎朝のあいさつ運動を推進し、日常的に縦割り活動を進める中で、すべての児童に思いやりの心をもって優しく接するという気持ちが育ってきた。

3 健康増進・体力向上

児童の運動能力および筋力、持久力のさらなる向上を目指し、研究授業を通して体育授業や教材、指導内容の工夫に努めた。さらには、持久走週間や縄跳び週間等、一定期間集中的に運動に取り組んできた。平成30年度は東京都の運動能力調査ではわずかであるが都平均を上回る結果が得られた。

4 重点的な取組事項						
番号	内容	実施期間				
		29	30	31	32	33
1	学力向上	○	○	○	○	○
2	小中連携	○	○	○	○	○
3	体力向上	○	○	○	○	○

5 平成31年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上
A 今年度の成果目標		平成31年度区学力調査目標通過率と年度末の到達目標
文章力、読解力、計算力、数学的な考え方の育成		平成31年度区学力調査目標通過率80%以上 年度末の到達目標31年度4月調査のプラス5%以上
B 前年度の取組み内容		
項目	具体的な方策	
朝学習、昼学習および放課後学習の効果的な運用	漢字、計算を中心に復習を行う。定着度テストを実施し、全員が正答率80%の結果を出す。つまずきのある児童への個別指導。	
基礎学力の確実な定着のための取組	読解力向上のためのドリル学習の導入。給食前かけ算九九に不安のある児童への個別指導。地域と連携した「桜花基礎学習教室」の実施。	
教師の授業改善、授業力の向上	管理職と学力向上担当者による授業観察と事後指導の徹底。国語科の授業研究を通し、足立スタンダードを確実に定着させる。	
小中連携による系統性のある授業の創造	全ての教科の学習において、言語活動を重視した授業を実施するとともに、小中連携もその視点から、一貫した研究を進めていく。	
C 前年度の成果と課題		
1 児童の基礎学力の向上 区調査の結果は、国語75.5%、算数73.4%、全体74.5%の通過率で、区内小学校間の順位は10位上昇したが、数値自体は昨年度に比べ、1.5、3.8、2.6ポイント低下した。調査結果の分析から、国語では読解力、語彙力、文章力を高める必要があることが明確になったので、読解に特化したドリルを全学年で使用するとともに、100文字作文等、書く学習を日常的に取り入れるようにしたら区調査の再テスト等の場面での無答が目に見えて減ってきた。算数では、基礎的な計算力に加え、図形の理解、文章問題等に不安のある児童が多く見られたので、授業以外でも放課後教室等において一人一人の課題に応じた個別指導を行い確実な理解を目指した。		
2 教員の授業力の向上 経験5年以下の若手教員を中心に、全教職員を対象に定期的に授業観察を実施し、管理職、区教科指導専門員、主幹教諭が指導を行った。授業では、足立スタンダードに示された板書、ノート指導の内容を確実に身に付けさせるよう繰り返し指導を行った結果、児童一人一人のノートがきちんと整理され、授業の進行もスムーズになってきた。地域や保護者による評価では、「授業は分かりやすく、子どもの学力を伸ばす授業を行っている」の項目で90%以上の評価を得た。		
3 幼保小、小中連携 幼保小連携では、連携保育園も含めて園長との懇談や職員相互の研修会を10回以上実施し、より効果的な交流研修や活動を計画・実施することができた。今後は、園児や児童の指導に教員や保育士がより多くかかわれるよう研修の質を向上させていくようにする。小中連携では、9年間を見通した小中の切れ目ない指導を目指し、年間7回の相互の授業研究・協議会を通し、教材や指導法の共通化をさらに深化させた。		

D 今年度の目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
別紙 「平成 31 年度 学力向上アクションプラン」参照		

重点的な取組事項－ 2	小中連携
--------------------	------

A 今年度の成果目標	達成基準
学力向上に直結した授業力向上を根幹にした連携	学校評価項目、分かりやすく丁寧な授業を行い学力も身に付いている 95%以上

B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
重点教科による校内研究を中心とした小中連携	全学級担任と専科による校内研究授業の公開を全学級（事前授業も含む）で実施。	すべての児童の言語能力向上を目標に、文章の読解を中心とした研究授業を各学年で公開。連携校だけでなく、近隣校、幼保にも参観を呼びかける。
各教員の専門教科による公開研究授業の小中連携	連携校教員の専門教科ごとの研究部会による指導案検討会と研究授業を小中で実施。	校務支援システム等を活用し、事前に指導案や資料を配信し協議をより活性化させる。
道徳授業を通しての小中連携	9年間を見通した内容項目の選択と、指導方法の共通化を図る。	小中でそれぞれ道徳授業を実施し、協議会を通して、児童・生徒の課題を共有化し、指導の連続性を強める。

重点的な取組事項－ 3	体力向上
--------------------	------

A 今年度の成果目標	達成基準
心身ともに健康な児童の育成	都運動能力調査で、全学年・全調査項目で都平均を上回る。筋力・投力の向上

B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
体育科授業の改善	体育科公開授業を各学級一回以上実施、全ての児童が楽しいと思う体育授業の実現	恵まれた自然環境を活用し、運動量が確保できる授業実践、器械運動を中心とした体力づくりの運動の強化。
年間を通した体力向上の取組	運動朝会 10回、様々な運動を行う機会の提供。	休み時間を活用した運動や遊びの指導、季節や行事に合わせた各種運動月間の設定。
自己の運動記録に挑戦する意欲の高揚	全児童が年間を通した個人の体力カード活用、行事や運動月間ごとに学校記録の更新を行う。	体力テスト・水泳・持久走・縄跳び等の個人記録を整理し、指導に役立てるとともに家庭とも連携した取組の推進。

「平成31年度 学力向上アクションプラン」

足立区立桜花小学校 学校長 芳賀 幸広

	新 継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 <誰が、何を、どのように>	達成確認方法	達成目標 (=数値) <いつまで・何を・どの程度>
1	継 続	朝学習 (スキルアップタイム)	全児童 国語 算数	毎週月火金 (国語・算数) 1校時開始前15分	【指導者体制】担任 【取り組みのねらい・目的】学習内容の復習・確認を行う。 【使用教材】読解、漢字、計算等のプリント学習 ○付けは各児童、担任等が行い、当日中に返却	2か月に1回教科を指定し、ミニテストを実施	毎回のミニテストで全員が正答率80%以上の結果を出す。
2	継 続 ・ 改 善	放課後補習教室	全学年 国語・算数 正答率70%未満 単元テスト 正答率70%未満	毎週金 放課後 (教科は隔週交代)	【指導者体制】 担任+専科サポートメンバー4名 【取り組みのねらい・目的】 つまづきをさかのぼり、演習を中心に個別もしくは少人数指導。 算数に関しては、学習した内容を1ヶ月程度後に復習問題を実施する。 【使用教材】次へのステップ、ベーシックドリル 学校独自の算数プリント	定着度確認テスト (1月実施)	1月までに実施する定着度確認テストで目標値を通過する対象児童100%
3	継 続	サマースクール	全学年 国語・算数 各学年約10名程度。	夏休み期間中の 10日 各日45分	【指導者体制】 管理職1名+担任+専科サポートメンバー4名 【取り組みのねらい・目的】 過去学年にさかのぼったつまづきを学力調査結果等で確認し、解けなかった問題の解き直しや週の授業内容で理解が完全でない内容の補充問題を行う。 また、テーマごとに学年を越え補習をする時間も設定し、苦手意識の早期解消を狙う。専科はその補助を行う。 【使用教材】区学力調査補充問題・プリント教材	夏休み終了後、確認テストの実施	夏休み終了後の確認テストで全員の正答率の10%アップ

4	継続・改善	家庭学習週間	全学年 全員	年2回 6月、12月	【取り組みのねらい・目的】 家庭学習強化月間とし、宿題の提出率を各教科で確認する。 提出できない児童に対しては、その日のうちに放課後指導等で課題を終了させてから下校させる。 家庭学習週間の取り組み結果を学校便りで保護者へ周知する。	宿題提出状況調査	宿題提出率90%
5	継続	読解力向上問題への取り組み	全学年 全員	年10回 土曜授業	【取り組みのねらい・目的】 読解力向上のためドリル学習を実施し、その成果を日常のワークテストで確認する。(教材変更)	個人カルテにて経年変化を見る	上位層児童5% 中位層児童7% 下位層児童10%の向上
6	継続	かけ算九九	2学年以上 全員	年間を通し給食準備の時間等すきまの時間	【取り組みのねらい・目的】 かけ算九九の全員習得をめざし、全児童確認テストを実施後、未習得児童は個別にプリント学習を行う。確認テストにて確認する。	確認テスト	100%の習得
7	継続	読解力向上への取り組み	全学年 全員	年間を通しての国語科の授業	【取り組みのねらい・目的】 校内研究と連携し、読解力向上のため授業スタイルを変更し実施する。その成果を日常のワークテストで確認する。	単元毎のワークテスト 前年度との比較	上位層児童5% 中位層児童7% 下位層児童10%の向上
8	新規	家庭学習習慣化の取り組み	全学年 全員	年間を通して	【取り組みのねらい・目的】 家庭学習の習慣化を目的とする。 毎日児童が実施できる内容を行う。 内容・質・学力向上を目的としない。 量的目標は学年で設定する。 ノートに記述し提出する。	実施回数を調査する。	全児童100%の実施率